

9/15  
2009 No.252  
特別定価 650  
yen

# pen

with New Attitude



2009年・秋冬ファッション特大号

モダン・クラシック宣言。

エルメス／ルイ・ヴィトン／グッチ／プラダ  
魅惑の4ブランド、  
その創造力を解剖する。

人気スタイリスト4人の視点

大人の着こなし新提案。

セレクトショップで買う、

秋冬の必需品。

## ジャズの息吹がラベルに香る、 淡い琥珀色の麦焼酎。

地元消費のみの小さな焼酎蔵だった実家に、東京からサラリーマン生活を

数年間、この大ヒット麦焼酎の仕掛け人である宮崎県高鍋の黒木本店社長、黒木敏之氏の講演を聞いて、私はすっかりファンになってしまった。

この魅惑的なフレーズが包装紙にくく小さく刷り込まれた焼酎。最初に気がついたのは酒好きのジャズ愛好家だったに違いない。もちろん、ラテンアメリカ文学ブーム世代や寺山修司フリークなら、ブーム火付け役となったガルシア・マルケスの小説『百年の孤独』(寺山はこれを映画化した)と同じ名前前に惹かれた人も多かっただろう。

「音楽というものは、それを聴き終わった瞬間から空に消えさつてしまい、二度と取り戻すことは出来ない」アドリブを得意とするアメリカ人ジャズマン、エリック・アラン・ドルフィーの遺作となったアルバム『ラスト・デイト』に収められた言葉である。

ここ10年は、大地と一体化した自然な酒造りをテーマに、一からの原料作

ごい焼酎ファンがいるものだと思うが、お酒を持って北海道まで行ったという黒木さんはもつとすい。

辞め戻ったとき、世間は第2次焼酎ブーム。ライトな味がウケていた時代に、山芋焼酎のブレンド用として売れ残っていた大量の麦焼酎を原酒のまま樽に寝かせ、自分好みのスタイルに仕立て商品化した。昭和60年のことだ。

口コミで評判が広がり、見ず知らずの人から「お前は趣味が合うから結婚式に出てくれ」と北海道から連絡をもらったこともあったとか。なんともすごい焼酎ファンがいるものだと思うが、お酒を持って北海道まで行ったという黒木さんはもつとすい。

「酒というものは、それを飲み終わった瞬間から胃の腑に消えさつてしま

「酒というものは、それを飲み終わった瞬間から胃の腑に消えさつてしま

りのため農業生産法人を立ち上げ、焼酎廃液から飼料・肥料を作るリサイクルシステムを構築し、自ら作業着で百姓仕事に精を出している。しかし、土まみれ泥まみれになっても、ますますアカデミックでインテリジェントなオラが増す黒木さんには、まったく惚れ惚れしてしまつたのだ。

「酒というものは、それを飲み終わった瞬間から胃の腑に消えさつてしま



### 「百年の孤独」が飲める店

#### 居酒屋 はがくれ

イザカヤ ハガクレ

●東京都世田谷区下馬1-17-8

☎03-3424-9195

営業18時~23時30分

※日、祝

東急東横線祐天寺駅より徒歩12分

# 今宵も一杯

### 百年の孤独

Hyakunen no Kodoku

原産地 宮崎県高鍋

入手困難なことから、「幻」の焼酎と呼ばれることも。だが、アメリカンオークによる3~5年の樽熟からくる淡い琥珀色と、軽いニラの香り、柔らかく香ばしい余韻こそが、この酒を「幻」にしている本当の理由だ。



photograph by Atsushi Sano